

## 平成26年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(熊野市)の概要 【速報版】

9月14日(日)に「熊野市文化交流センター 1階 多目的ルーム」で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、地元の観光資源や特産物を活用した地域の活性化に取り組んでいる「熊野市観光協会」と「熊野市物産振興会」の皆さん6名にお集まりいただき、活動内容や課題、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



### 【参加者からの発言】

(活動紹介)

各団体の会長から団体の活動について紹介していただいた後、メンバーの皆さんから、自身の主な活動の報告を含め、自己紹介していただきました。

(「熊野市観光協会」の活動内容紹介)

○一番大きな事業として、熊野大花火大会を主催(熊野市と共催)しているが、それ以外にも、今年は熊野古道世界遺産登録10周年ということで、いろいろなことを手掛けている。

○まずは、熊野を知っていただくことから始めようということで、本日も展示している熊野の観光スポットの写真を、県内外の金融機関の各店舗に1か月間ずつ展示している。

(「熊野市物産振興会」の活動内容紹介)

○熊野市及び近隣市町で活動する域内活動型とそれ以外で活動する域外活動型の2つに分けて、既存の特産品の情報発信や新商品の開発支援などを行っている。

○昨年度に日本橋にオープンした三重テラスを活用した商談会や観光と連携した特産品のPRに力を入れて取り組んでいる。

**Q. 「熊野市観光協会」の皆さんは、熊野の観光スポット一つをPRしてください。**

- 紀伊続風土記の中でも出てくる「丹倉（あかくら）神社」が、縁結びのスポットとして注目を浴びている。昨年の11月から今年の7月までに3回、神社の前で結婚式が行われた。
- 熊野市須野町を推したい。須野町は、昨年の4月には人口が2人になったが、「丹倉神社」で結婚式を挙げた2人が、今年の7月に移住して、人口が5人になった。人口増加率は250%である。一番の魅力は、目の前に広がる海で、ブリやクエなどが捕れる。
- 人の手が加わっておらず、ありのままの美しさが残っている「七里御浜」が一番熊野らしい場所だと考えている。

**Q. 「熊野市物産振興会」の皆さんは、熊野の美味しい物一つをPRしてください。**

- やはり熊野といえば「めはり寿司」だと思う。目を見張るほどおいしいことに加えて、歴史も古い。高菜は栄養価が高く、最近の調査では、抗酸化物質が多く含まれていることがわかってきている。
- 「美熊野牛」をPRさせていただきたい。「美熊野牛」は松阪牛と同じ黒毛和種の三ツ星に限定しており、赤身に含まれている肉の甘味が付加価値となっている。食べ方は、肉の味をダイレクトに感じ取っていただくために、塩コショウがおすすめである。
- 熊野といえば魚、特にさんまの丸干しだと思う。そこから、燻しの技術を使って熊野商工会議所とコラボしてできたのが「神さんま」である。熊野のさんまは、東北からずっと下ってきて脂が抜けているからおいしい。

**Q. これからの更なる飛躍に向けて課題になっていることをお聞きしたい。**

- 大手交通事業者ではなくても、案内費用をいただいて、きめ細かく地域の人たちがお客様をもてなし、送迎できる仕組みを作っていきたいと考えているため、旅行業法の改正をお願いしたい。
- 熊野大花火大会において、県や市の施設を借りて駐車場にしているが、県の施設は有料での駐車が禁止されている。他の施設では、営利目的ではなく、清掃協力金として1台1,000円をいただいており、不公平感を解消するために、県の施設でも料金を徴収できるシステムを考えていただきたい。
- 大量に生産できない個人事業者では都会での商談が難しいので、一般客の方に試食していただいてリピーターになっていただく必要がある。そのためにも、三重テラスの2階の特設会場で肉や干物などを試食できるようにしていただきたい。
- 三重テラスは保管庫が小さいため、大通り側の窓側が荷物置きになっており、大通りからみたらあまりいい景色ではない。
- 熊野は関西とのつながりが大きく、新名神高速道路もできたことから、関西でのPR方法を模索したいと考えている。三重県の関西事務所から送られる情報は募集期間が短いものがあるので、工夫をお願いしたい。
- 松阪牛の定義を変えていただきたい。松阪牛の定義は、BSE（牛海綿状脳症）が出てから、旧22市町村のエリアに限定されてしまった。そのため、今はエリア外おいしい牛が安くなっており、エリア外の人が報われない状況になっている。

## 〔知事の発言〕

- 私もいろいろなところで三重県のPRや宣伝をしているが、熊野のものはどうおいしい、他とはどう違う、ということプラスしてPRしなければ他のものに埋もれてしまう。皆さんで知恵を出して、付加価値を付けたPRをしていく必要がある。
- 旅行業法の改正については、内容を工夫して国に要望する必要があると考えているため、働く場を生むという意味でも少し考えさせてほしい。
- 熊野大花火大会は、官民あげて開催しているイベントであるため、県の施設を駐車場として使う場合の有料化については、県の内部で相談して回答させていただく。
- 三重テラスの2階では、建物の構造上、法律で調理が禁止されているが、1階で調理して2階に上げれば、2階で試食することは可能である。
- 三重テラスについて、できる限り使う税金を少なくしようとしているため、保管庫はそれほど大きくない。ハードの問題であり、保管庫を大きくすることは難しいが、窓際の荷物は移動させたい。
- 三重テラスの活用については、三重県営業本部担当課でエリア担当を設けているので、しっかりコミュニケーションをとるようにしていきたい。
- 関西事務所では「関西営業戦略」を策定して、いろいろなイベントでPRを行っている。募集期間が短い情報については工夫をして提供させていただきたい。
- 松阪牛の定義は、松阪牛協議会で決めているため、行政としては、松阪牛以外のおいしい牛が報われていくようなPRを一生懸命やっていきたい。
- 南部地域、東紀州地域の活性化のためには、定住人口を増加又は維持させることが一番大事だと思っている。そのためには、交流人口を増やすことが第一歩であると考えている。交流人口を増やすための認知度向上のために頑張っている皆さんに敬意を表して、皆さんと一緒に頑張っていきたい。



「熊野市観光協会」は、世界遺産熊野古道をはじめ、熊野市内の観光名所の案内、熊野大花火大会を主催（熊野市と共催）するなど、熊野市の観光振興に取り組んでいる団体です。

「熊野市物産振興会」は、三重テラスでの熊野フェアや会員の新品開発を支援するなど、熊野市の特産物の紹介、宣伝、あっせん等を行い販路の拡大に取り組んでいる団体です。